

(様式)

令和7年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

蓮田市立蓮田南中学校

1 育成する能力

【6つの資質・能力】

課題発見力…探究課題を自ら設定することができる。

主体性…課題解決のために自ら進んで行動しようとしている。

協働性…課題解決のために友達と力を合わせようとしている。

論理力…情報を分類、整理し、筋道を立てることができる。

創造力…新しい価値や組み合わせ、発想を見出すことができる。

社会関係形成力…より良い社会づくりのために、地域や企業の人たちと協力することができる。

2 研究概要

(1) 取り組むSDGsの目標



(2) 研究主題

持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成

未来創造型PBL★2ndステージ

～気づく・探究する・参画する～

(3) 研究仮説

持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を明確化して、地域や企業等と連携して「SDGsの実現に向けて社会とつながる教科横断的な探究・プロジェクト学習（PBL）」を小中9年間を見通して工夫して実施すれば、課題を自分事としてとらえ、その解決に向けて自ら行動を起こす力を育成することができるだろう。以下はその手立てである。

- ①企業との連携…専門的な話を聞くことで、課題を見つけ自分事として捉え、その解決方法を考え出すことができる。
- ②学年テーマ別学習…1年環境、2年福祉、3年国際理解に関係する企業等の担当者から、持続可能な社会づくりの取組の紹介を受ける。
- ③課題解決学習…テーマに沿った課題を見つけ、その解決方法を自分事として考え、その実践を日常生活で試みたり、企業等に提言したり、持続可能な社会の創り手としての参画意識を育む。
- ④教科横断的学習…カリキュラムの見直しを行い、各教科の学習にSDGsの視点、育成したい6つの資質・能力を明記することで、教科横断的にSDGsの学習を進めることができる。

3 企業・団体との連携

(1) 連携・協働した企業・団体

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① セブンイレブン・ジャパン | ⑦ ヤマト運輸 |
| ② ピジョン株式会社 | ⑧ 株式会社JTB埼玉支店 |
| ③ ARROWS | ⑨ 株式会社岩崎食品工業 |
| ④ 埼玉県立岩槻はるかぜ特別支援学校 | ⑩ 株式会社ファースト・リテーリング |
| ⑤ 蓮田市社会福祉協議会 | ⑪ 埼玉県庁企画財政部計画調整課 |
| ⑥ 蓮田市中央公民館 | |

(2) 連携・協働した主な内容

【1年生】

(セブンイレブン・ジャパン)

- ・企業のSDGsの取組について講演を通して、企業がどのような工夫をしてSDGsの達成を図っているかを学ぶ機会を設けた。
- ・企業の取組を知り、SDGsに配慮した新商品について提案を行った。



【2年生】

(ピジョン株式会社、蓮田市社会福祉協議会、蓮田市中央公民館、埼玉県立岩槻はるかぜ特別支援学校)

- ・社会福祉協議会や中央公民館の方からの講演を通じて地域福祉の学習を行い、蓮田市が取り組んでいる福祉サービスや、地域が抱える福祉的課題について学びを深めた。
- ・埼玉県立岩槻はるかぜ特別支援学校より、中学部の生徒を招き、複数のゲームやダンスなどを通して交流した。
- ・ピジョン株式会社の方を招いて妊婦体験やベビーカー体験を行い、子連れの子の母親の苦労や外出時の手助けは何かを学んだ。
- ・福祉について学んだことを踏まえ、「蓮田市に新しいコミュニティセンターを創ろう～みんなが集うはすびいガーデンプロジェクト～」という共通テーマで、多くの人にとって憩いの場所となる地域拠点施設のフロアマップの計画を行い、発表・提言した。



【3年生】

(埼玉県庁企画財政部計画調整課)

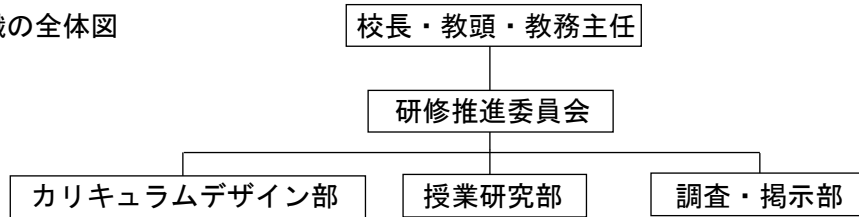
- ・修学旅行で京都・奈良の観光地を訪問し、多くの外国人が日本で過ごしやすくなるためにはどうしたらよいか個人研究を行った。
- ・講演会で各企業等から聞いたことをもとに個人研究を行い、分かったことを踏まえ、グループで「オーバーツーリズムから考える埼玉の課題とその解決策～多文化共生を目指して～」をテーマに研究及び発表準備を行った。
- ・株式会社ファースト・リテーリングの方からは、服の力について講義をいただいた。古着を回収し難民キャンプに送るため、近隣の小学校や地域へ回収を呼びかけ回収を行い現地へ発送した。
- ・グループ別学級発表を経て、全体発表会を実施し、県庁職員の方等へ研究成果を発表した。



4 研究内容

(1) 研究組織

①組織の全体図



②分科会と主な分担内容

- ・カリキュラムデザイン部
教育目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく。
- ・授業研究部 各単元計画を発想、構想、計画、実践する。
- ・調査・揭示部
実態調査フォームの作成や調査の実施、結果の分析などを行う。揭示啓発教育の実践を行う。

(2) 研究の流れと取組

①令和5年度

月 日	事業内容	場 所	対 象
5月9日	田植え	本校前水田	1年生
6月20日	SDGs職員研修会（黒浜南小との合同実施）	黒浜南小学校	教員
8月21日	SDGs職員研修会（黒浜南小との合同実施）	本校	教員
9月12日	稲刈り体験	本校	1年生
10月4日	福祉講演会（蓮田市社会福祉協議会）	本校	2年生
10月6日	SDGs基礎講演会（県計画調整課）	本校	全学年
11月13日	ピジョン体験学習	本校	3年生
12月6日	社会福祉体験（蓮田市社会福祉協議会）	本校	2年生
12月7日	エコプロダクツ展	東京ビッグサイト	1年生
12月14日	SDGs発表会	本校	3年生
2月5日	SDGs発表会	本校	2年生
2月20日	スターバックス講演会	本校	1年生
2月27日	SDGs発表会	本校	1年生

②令和6年度

月 日	事業内容	場 所	対 象
5月1日	全校学習会（セブンイレブン・ジャパン）	本校	全学年
5月8日	田植え体験	本校前水田	1年生
5月28日	農業講演会	本校	1年生
6月27日	岩槻はるかぜ特別支援学校コーディネーター講演会	本校	2年生
7月3日	地域福祉学習会（蓮田市社会福祉協議会）	本校	2年生
7月4日	SDGs学習会（スターバックス・コーヒー）	本校	1年生
7月17日	SDGs学習会（NEXCO東日本）	本校	1年生
8月22日	SDGs職員研修会 （黒浜南小、黒浜小、黒浜中と4校合同）	県立蓮田松韻高校	教員
9月10日	稲刈り体験	本校前水田	1年生
10月16日	SDGsポスター制作（テレ玉取材）	本校	1年生
11月9日	PTAバザーでのスターバックス試飲会・リサイクル遊びの実践	本校	全学年、保護者

11月15日	SDGsポスター発表会（セブンイレブン、スターバックス、NEXCO東日本）	本校	1年生
11月18日	岩槻はるかぜ特別支援学校交流会	本校	2年生
11月25日	SDGs国際理解学級発表会	本校	3年生
11月28日	SDGs国際理解発表会（埼玉県庁企画財政部計画調整課、蓮田市教育委員会）	本校	3年生
12月5日	エコプロダクツ展参加	東京ビッグサイト	1年生
12月18日	SDGs福祉発表会（蓮田市社会福祉協議会、岩槻はるかぜ特別支援学校、埼玉県庁企画財政部計画調整課、蓮田市教育委員会）	本校	2年生

②令和7年度（※2学期まで）

月 日	事業内容	場 所	対 象
4月30日	全校学習会（ヤマト運輸）	本校	全学年
5月7日	田植え体験	本校前水田	1年生
6月18日	SDGs学習会（JTB、岩崎食品工業、埼玉県庁企画財政部計画調整課）	本校	3年生
6月19日	SDGs学習会（蓮田市社会福祉協議会）	本校	2年生
6月26日	SDGs学習会（ファースト・リテーリング）	本校	3年生
7月8日	SDGs学習会（ピジョン）	本校	2年生
7月9日	SDGs学習会（セブンイレブン）	本校	1年生
8月22日	SDGs職員研修会	本校	教員
8月27日	SDGs学習発表会（SDGs推進委員）	蓮田市役所	SDGs推進委員、蓮田市長、教育長
9月8日	SDGs学習会（蓮田中央公民館）	本校	2年生
9月9日	稲刈り体験	本校前水田	1年生
9月19日	岩槻はるかぜ特別支援学校交流会	本校	2年生
11月1日	PTAバザーでの古着回収の実践	本校	全学年、保護者、地域、蓮田南小児童
11月25日	SDGs発表会（セブンイレブン、岩槻はるかぜ特別支援学校、埼玉県庁企画財政部計画調整課、岩崎食品工業、JTB、ヤマト運輸、蓮田市社会福祉協議会、蓮田市教育委員会）	本校	全学年

5 成果と課題

○生徒の変容（6つの資質・能力の視点から）

- ・生活や学習の中から見出された「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」等の思いを持って、課題を見つけることができるようになった。（課題発見力）
- ・自分で目標や課題を設定し、課題解決策を目標から逆算して考え、実行のためのアイデアを持つことができた。（主体性）
- ・ペアやグループ学習で、意見を調整しながら話し合いに参加し、発表ができた。（協働性）
- ・調べたことを根拠に、課題解決のための方策を考え、聞き手によく伝わるように工夫することができた。（論理力）
- ・今まで学んだことを整理し、課題について友達と話し合い、生活に生かせる新しいアイデアや解決策を見出すことができた。（創造力）
- ・地域や企業の人と協力し、課題の解決策を構想することができた。（社会的関係形成力）

(参考) 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙結果について

(「あてはまる」、「どちらかといえばはまる」の合計割合) ※括弧内は全国の合計平均割合
【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか】

令和5年度59.0%(63.9%)→令和6年度80.2%(76.1%)→令和7年度84.6%(75.3%)

【課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか】

令和5年度74.4%(79.2%)→令和6年度90.1%(80.3%)→令和7年度89.1%(77.7%)

(参考) 埼玉県学力・学習状況調査

「課題の解決」、「協働学習による学習の深化」に関する質問において

今年度の2年生、3年生で埼玉県平均よりも18ポイント以上高い肯定的回答を得ることができた。

○学校全体の変容

- ・授業や集会などで、生徒が堂々と自分の考えを分かりやすく言えるようになった。また、話し合い活動へさらに意欲的に取り組むことができるようになった。
- ・企業の方に提案することにより、プレゼンテーションに対する意欲と能力の向上が見られた。
- ・相手意識を持って行動することができるようになり、学級等での自分の役割を自覚した行動をとれることが多くなった。
- ・自分たちで考えた提案を企業や県庁の方などに聞いていただいたことにより、学校での学びが社会につながることを実感し、社会参画の意識を高めることができた。

○連携した企業・団体の声

- ・生徒のプレゼン内容だけでなく、クイズ等を用いて、聞き手をひきつける発表をすることができ、自分の考えや提言を分かりやすく伝える生徒の姿に頼もしさを感じた。
- ・どんなことに困っているのか調べられており、何が課題であるかを明確化できていた。また対応策についてその根拠や具体的なアイデアを訴えている点は好感が持てた。
- ・生徒自身が解決すべき課題を自分事と捉え、班の友達と協力し、やる気を持って取り組む姿勢が大変素晴らしかった。

○課題

- ・どのような生徒像を目指すか、全職員の共通理解を図る場の設定を通して、研究に対して教員間の連携強化や役割を明確にする。
- ・各学年テーマにあった企業とのマッチングや講演会、学習会の開催。
- ・総合的な学習の時間を中心に、他の学校行事や教科の授業と往還し、学んだことを深化し、生徒の思考や日常生活にいかされるよう指導すること。